

新建築あいち

2022. 6月号

新建築愛知支部事務局：株式会社 宮工務店 気付
ホームページ(2022年4月～)URL <http://nu-ae.com>

〒486-0904 春日井市宮町 1-11-25
TEL 0568-34-7775 FAX 0568-34-7797



■日時：2022年6月4日(土)
13:00～16:00

■場所：新城市門谷の鳳来寺
山表参道沿い 旧黒屋家住宅
※駐車スペース有



太陽光パネルとバッテリーで、ベランダにも置ける小型発電所をつくってみませんか？普段はPCや卓上ライトなどの電源として使用。災害時の非常用電源やアウトドアでも活躍！NPO法人「太陽光発電所ネットワーク」の佐藤博士さんのご指導で、発電パネル、インバーターやバッテリーなどの機材を組み立てます。基本をマスターして建築現場の電力自給の第一歩を踏み出しましょう！

<講師プロフィール>

佐藤博士(さとうひろし)

高校教員をしつつ水と食料の自給を目指していたが、東日本大震災で被災した郷里の姿を見てエネルギー自給の必要性を痛感。NPO法人太陽光発電所ネットワークに加入。現在、普及広報部の担当理事。電力自給化のワークショップの実績多数。ハヶ岳エコハウス「ほくほく」のリノベ工事再生可能エネルギー100%化の立役者。



■内容

○講義

- ・やさしい電気の基本
- ・システムの構成と働き
- ・使い方の注意とコツ

○組立実習

- ・端子の圧着
- ・システムの電気接続
- ・動作確認

<主な器材> 総重量約 12kg

- ・ソーラーパネル 50W (60×50×3cm、5kg)
- ・チャージコントローラー 10A (14×9×3cm、160g)
- ・インバーター 450W (20×8×2cm、750g)
- ・バッテリー 20AH12V (18×8×17cm、6.2kg)



今回の機材でできること

- ・ノートPC (50W) 2.5時間
- ・卓上ライト (蛍光灯・20W) 6時間
- ・テレビ (60W) 2時間
- ・スマホ充電 (5W) 24時間

のいずれかひとつ
*毎日使えば、ひと月あたり約200円の電気代を節約！

持ち運びに便利
専用キャリア→
別売り 2,000円



■持ち物： 特になし ※宿泊する方はタオル、寝具等

■定員：A、Bコース6名 Cコース8名(先着順)

■申し込み締切：A、Bコースの方の申し込みは5/20(金) Cコースは5/31(火)まで

■申し込み方法： お名前、携帯番号、参加コース、希望オプションを
新建築愛知 甫立(ほだて)アドレス hodate501@gmail.com にメールしてください。

参加費用

- Aコース：講習+組立実習 PV50W型 33,000円
- Bコース：講習+組立実習 PV100W 37,000円
- Cコース：講習+組立実習の見学 1,500円 ※学生1,000円引き

オプション

- ・宿泊・懇親会(飲み物は各自) 4,500円 ※寝袋持参の方は4,000円
- ・持運び可能なキャリア 2,000円



「5アンペア生活やってみた」著者、オフグリッドのハヶ岳エコハウス「ほくほく」の齋藤健一さんも参加！

「ウクライナ問題からの生活資本」～居住福祉と生活資本の構築(141)

岡本 祥浩

ロシア軍のウクライナでの軍事行動が止まらない。戦争は人が起こす人災だと言われるが、連日、破壊されたウクライナの街の映像が流れている。原形を留めない建物、荒らされた住居。街路に横たわる遺体。食糧、医療、電気や水さえも自由に手に入らない状態。肉親を失い嘆き悲しむ人々。避難した学校や入院した病院さえも砲撃を受けている。一時たりとも心安らぐ時はない。隣国ポーランドをはじめヨーロッパ各国へ、そして全世界に500万人を超える人々がウクライナから避難している。そのほとんどは女性と子どもである。

ウクライナからの避難民が難民をほとんど受け入れていない日本にも到着した。その数はヨーロッパ各国と比べると比較にならないが、海外の移住者を受け入れてこなかった日本社会には大きな問題である。4月初旬よりウクライナからの避難民を全国各地で受け入れ始めている。移住者を受け入れてない日本社会では、ビザの発給や身元保証人の免除、短い滞在期間の細切れな延長から始まり、公営住宅の無償提供、就労先の紹介、生活費や医療費の補助、無料の日本語教育など生活を支える手立てを芽づる式に提供しようとしている。ウクライナからの避難民に提供しようとしている生活を支える機能は、まさに生活資本の構築である。適切な表現ではないが、ウクライナからの避難民への支援問題は生活資本の構築を検証するに格好の材料を提供する。しかし、ウクライナからの避難民への特別手厚い措置は他の難民や亡命希望者との間に大きな溝を生むように感じられる。

ところで生活資本は生活を支える資源が居住地域に存在するだけでは構築できない。一人ひとりの生活の実現に社会の機能を結びつけなければならない。そのためには、一人ひとりの状況のきめ細かな把握と丁寧な寄り添いながらの支援が必要である。海外からの研修生や留学生の生活をきめ細かに支えようと地域住民との交流を促す催しが全国で試みられている。5月14日(土)のウイークエンド中部(NHK)で放映された刈谷市の「ワールデン」(ワールド・スマイル・ガーデン)は好例の一つだ。国籍・性別・年齢に関係なく、多様な人々が集まって野菜や花を育てたり、料理や文化を紹介しあってみんなで楽しむ活動である。リーダーのかつて日本に留学した頃の心細い経験に基づいて運営されており、誰もが気軽に居られる雰囲気醸し出されている。花や野菜を通して触れ合うので、言葉がわからなくても徐々に親しくなれる。日本人と外国人の交流の入り口として、また一人ひとりの悩みや不安を共有する場に相応しい。

ところで日本で暮らす外国人との交流の問題は、生活の基盤である住居の困窮である。外国人と言うだけで住宅市場から排除されている。そのために劣悪な居住状態に甘んじている外国人が少なくなく、居住水準の低さが差別を招くと言う悪循環に陥っている。日本で暮らす全ての人に、人に相応しい住居を日本政府が保障し、生活水準に格差を招かない社会を築かなければならない。そのことが、差別を無くし、お互いの理解を深め、戦争を無くす近道ではないだろうか。

(中京大学教授、日本居住福祉学会会長、新建会員)

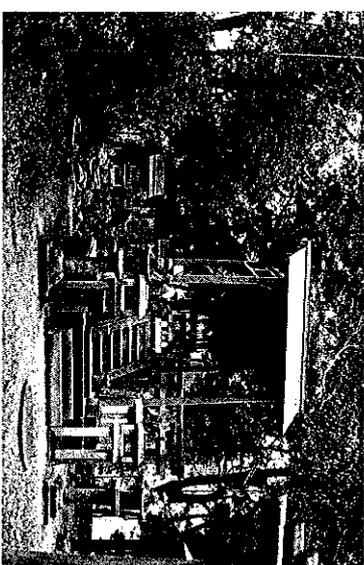
歴史探訪 かしま シリーズ ⑤ 南区

鹿島稲荷社と久太夫伝説

知多郡道が天白川にさしかかる所のや北に鹿島稲荷社と呼ばれる小さな稲荷社があります。この稲荷社に昔から狐の化身である妻を娶る久太夫の民話が伝えられています。

昔、南野村（現在の星崎町付近）に鑿江久太夫という若者が住んでいました。ある時、鳴海の仕事をすませた帰る途中、鹿島（かしま）と呼ばれる所のを通るとき、道のかたわらの草むらの中に美しい娘が立っているのを見つけました。若者はさそく家に連れて帰りこの娘を妻に迎えました。

太夫夫婦に一人の男の子が生まれましたが、この子が4、5歳の頃、偶然母親の尻に狐の尾があるのを見つけました。このため母親は自分が狐であることを知られたのを悲しく、久太夫の止めるのも聞かずどこともなく家へ去ってしまいました。しかたなく久太夫は子どもを連れて百姓をしていました。その年是不作の年にもかかわらず久太夫の田には稲穂が実り、豊年作の3倍も米がとれました。これは去つていった



▲久太夫伝説の鹿島稲荷社

母狐のしてくれたことと思ひ、謝の気持ちでこの稲荷社を建てたと云われています。これが鹿島であったために、鹿島稲荷と呼ばれ、また、久太夫稲荷とも呼ばれています。狐を妻に娶るといふ話は各地に残されていますが、ここにもこのような話が伝えられています。

